正和会 視察研修 報告書

日 時 平成27年10月7日~10月9日

場 所 長野県東御市

長野県長野市 (全国都市問題会議)

報告者 乙津豊彦

正和会 視察研修報告書

日 時 平成27年10月7日(水)~10月9日(金)

参加者 会長 乙津豊彦、

議長 末次和夫、政調会長 清水義朋、

大野 聰、田村昌巳、串田金八

杉山行男、町田成司、幡垣正生、佐藤弘治

計10名(但し議長は初日のみ別行動)

視察地 長野県東御市 東御市役所、(株)信州東御市振興公社

長野県長野市 ホクト文化ホール

視察内容 1. ふるさと東御応援寄附金(ふるさと納税) について

- (1) 事業を行うに至った経緯について
- (2) 事業の概要及び予算について
- (3) 事業の具体的内容及び状況について
- (4) 事業実施による効果及び問題点について
- (5) 今後の取り組みについて
- 2. 全国都市問題会議
 - (1) 第1日目(10月8日)
 - ① 基調講演 世界の山々をめざして登山家 田部井淳子氏
 - ② 主報告 生き生き「ながの」元気な長野 長野市長 加藤久雄氏
 - ③ 一般報告 都市の魅力づくりと交流・定住 立教大学観光学部兼任講師 清水愼一氏
 - ④ 一般報告 地域資源を活かした連携によるまちづくり 愛知県豊田市長 太田稔彦氏
 - ① 一般報告 一五輪一会 (株)文化事業部代表取締役 セーラ・マリ・カミングス氏
 - (2) 第2日目(10月9日)
 - ① パネルディスカッション【テーマ】都市の魅力づくりと交流・定住
 - (3) 行政視察
 - ① Eコース ボランティアガイドと巡る善光寺参道と東山魁夷館

経緯 昨年も参加した都市問題会議が今年は長野市で開催された。初日の開会時間が早いため前泊することになり、ふるさと納税で実績を上げ始めた東御市を視察した。研修に入る前に会長として挨拶を行ったが、福生市と同じく読みにくい市の名前である。平成の大合併で東部町と北御牧村が合併したため、両者の名前から1字ずつをとって東御市となったもの。委員会室で説明を受けた後、返礼品の発送を委託している「振興公社」が経営している観光施設を案内していただいた。

2日目、3日目の午前中は都市問題会議に出席し研修を重ねた。3日目の午後はオプションで用意された行政視察に参加した。

1. ふるさと東御応援寄附金(ふるさと納税) について

(1) 東御市の概要

東御市は、平成16年4月1日に小県郡東部町と北佐久郡北御牧村が合併して市制施行した。産業の主なものは農業(ぶどう、くるみ、水稲等)、道の駅(2カ所)を利用した農業振興、工業(工業団地)など。上信越国立公園内にある湯の丸高原はスキー場として人気がある。また、「海野宿」は国の重要伝統的建物群保存地区に指定されている。

総面積 112.37km²

人口 30,841 人 平成27年3月末現在

世帯数 11,752 戸 "

(2) 信州東御市振興公社の概要

平成6年7月1日に設立された株式会社で、主な株主は、東御市、信州うえだ農業協同組合、東御市商工会等である。事業内容は、「温泉施設等公共施設の管理運営」、「地ビールの製造販売・レストラン営業」、「公共宿泊施設の管理運営」、「農産物・加工品の販売」で、運営施設は、「湯楽里館」、「ゆうふる tanaka」、「御牧乃湯・御牧苑」、「アートヴィレッジ明神館・憩いの家」、「オラホビール工場 レストランオラホ」、「大田区休養村とうぶ」がある。

ふるさと納税の返礼品の選定、確保、発送などの事業を市から受託している。

(3) 東御市出席者

議会事務局	事務局長	宮嶋	武彦様
JJ	事務局次長	堀内	和子様
JJ	事務局主任	笹井	政孝様
総務部	企画財政課長	岩下	正浩様
JJ	企画財政課係長	中村	昌彦様
II.	企画財政課	曽根川	歌織様

(4) 研修テーマ

ふるさと東御応援寄附金(ふるさと納税)について、前述のとおり。

(5) 研修内容

説明、質疑応答、現地視察

今年3月に開通した北陸新幹線で長野に向かう。行きは上田駅で下車するため「はくたか」に乗り込む。上田駅で下車し、しなの電鉄に乗り換え、東御市役所に近い田中駅で下車。駅前にある温泉施設「ゆうふる tanaka」のレストランで昼食をとる。

平日昼間でも市民が温泉、スポーツジムを利用するため来館している。特産品等も販売 している。この施設も振興公社が管理を行っている。





上の写真は、上田駅にて、しなの鉄道のワンマンカーと昼食にいただいたミニカツ丼と ミニうどんです。

東御市役所のワゴン車に乗り込み庁舎に向かう。

研修が始まり、企画財政課長から歓迎の挨拶を受けた。高齢化率は 29%で 2040 年には人口 24,000 人、創生会議では 23,000 人と予想されている。目標を 28,000 人におき計画を推進する。面積は約 112 km²で、標高は 430m~2,230m、市役所は約 533m である。くるみの生産高は日本一、8 市町村でワイン特区。一般会計規模は 165 億円、身の丈以上と認識している。ふるさと納税には積極的ではなかったが、まちづくり協議会で檄を飛ばされ一昨年よりプロモーションの一環として推進している。

正和会会長として私から訪問の挨拶を行った後、我々の研修項目を配布された資料をもとに係長から説明をいただいた。以下前述の視察内容の項目に沿った形で内容を整理する。





写真は研修を受けているようす。

① 事業を行うに至った経緯について

平成20年度の国の制度(地方税法等の一部を改正する法律)開始と同時に、寄附金の受け入れを開始、平成26年度より、特産品PR等のシティプロモーションの一環として返礼品の贈呈を開始した。

② 事業の概要及び予算について

(a) 概要

市が行う施策を応援するための寄附金を募集するもので、使途先を選択できる。 年度内の寄付に関しては、年度内の事業予算に充当している。

1回10,000円以上の寄付をいただいた方については、返礼品を贈呈している。

(b) 予算

歳入 40,000 千円

歳出 納税謝礼:20,000千円(返礼品発送に係る経費)

広告料:114 千円 (ポータルサイト掲出に係る経費)

手数料:484 千円 (クレジットカード決済に係る経費、1%+消費税)

③ 事業の具体的内容及び状況について

(a) 返礼品

市の農産物・特産品のPR、地場産業の振興、交流人口につながるものを返礼品として選定している。

(b) 使途

寄附の申し出の際に、寄附金の使途を指定してもらう。総合計画におけるまちづく りの目標を使途先とし、それに関する施策に寄附金を充当している。

(c) 寄附金の実績

平成 26 年度 669 件 7,863 千円、平成 27 年度 (10 月 7 日現在) 3,437 件 35,057 千円となっている。平成 27 年度から、制度の改正(ふるさと納税枠の拡大、ワンストップ特例制度の開始) やふるさと納税制度の全国的な高まりにより、申込件数が増加している。

(d) 寄附の流れ

東御市の特徴は、市で受け付けた寄附に対する返礼品の調達、発送等を全て振興公 社に委託している点である。

(e) 申込み

申込書の提出、もしくはポータルサイト(ふるさとチョイス)から申込みができる。 ポータルサイトの活用は平成26年9月からで、平成27年度では全体の94.3%がポー タルサイトからの申込みとなっている。

(f) 寄附金の納付

金融機関で使える納付書もしくはクレジットカード決済となっている。クレジットカード決済は平成27年4月より導入したが、平成27年度では全体の申込みのうち73.5%がクレジットカード決済によるものである。

(g) 特産品の発送

振興公社および観光協会と契約し、特産品の手配・発送を依頼している。

④ 事業実施による効果及び問題点について

(a) 効果

自主財源の確保、特産品のPR等のシティプロモーションの推進、地場産業の振興、 発送に必要なスタッフの確保などの雇用創出に実績が上がっている。

(b) 問題点

東御市民が他市町村へふるさと納税を行った場合、市の税収が減る。

⑤ 今後の取り組みについて

返礼品の拡充を行い、さらなる地場産業の振興、特産品のPR、交流人口の増加を望み たい

説明が終わり、質疑に移った。

- Q) 観光協会について
- A) 商工観光課内に置いてある(北御牧庁舎内)。課長が事務局長を務める。湯の丸スキー場を中心に加担。
- Q)返礼品の選定は?
- A) 巨峰、ワイン、地ビールなどは皆認めるもの。振興公社が取り扱えるもので、スキー場のリフト券等も対象となった。役所から指定することは難しい。公社、協会から提案を受ける。
- Q) 商工会の関与は?
- A) 直接には声かけしていない。特産品協議会(農協、振興公社等) にも話しかけている が返事待ち。
- Q) 振興公社の位置づけは?
- A) 市からも出資する第3セクター。旧東部町の湯楽里(ゆらり)館の運営のため設立され、現在では指定管理者。
- Q) 東御市へのふるさと納税額は説明いただいたが、逆に他市町村にふるさと納税された額は?
- A) はっきりは分からないが、交付税の説明に47万円という数字がある。
- Q) ホームページの関連、返礼品の追加時どのくらいの期間でアップデートされる?
- A) 増やすと決まった時点でポータルサイト、市のホームページを同時にアップデートする。
- Q) 返礼品となった生産者へのメリットは?
- A) 巨峰などは生産者カードを同梱している。直接購入したいとの問合せが1件あった。 このような形で生産が増加すれば望ましい。

- Q) 市のPRはどのように行っている?
- A) 礼状発送時に市のPR、案内等を同封している。振興公社で返礼品を発送する際には 公社のPRを入れている。
- Q) フェイスブックへの登録者は?
- A) 現在、「リーチ」が 6,000人、「いいね」が 440人である。
- Q) ポータルサイトについて?
- A)「ふるさとチョイス」というサイトで、全国の市町村を紹介しており色々な選択肢で目的の市町村がチョイスできる。そこからふるさと納税の手続きができる。そこから派生したサイトも多数できている。

最後に視察担当の杉山議員からお礼の挨拶を行い、現地に案内していただいた。

日帰り温泉施設、湯楽里館に併設されている湯楽里館物産センターに案内された。下の 写真は駐車場から望むブドウ畑、物産センターの休憩所(左の建物が温泉施設)のようす である。





物産センターの中で返礼品の発送業務を行っているとのことである。

物産センターのなかでは農産物をはじめ、東御市の名産品が並んでおり即売される。松 茸や取れたてのクルミなどが目に付く。平日にも拘わらず、温泉施設に来る客で賑わって いた。

報告者の感想

会長挨拶の中で福生市も読みにくい名前だが御市もそうなのでは、と聞いたところ課長からおっしゃるとおり、との説明があった。名前の由来は前述のとおりだが、市民が決めたと聞いた。

ふるさと納税に関して、市では積極的に取り組むつもりはなかったとの説明だったが、 近隣の市町で実績を上げ始めると市内の生産者等から突き上げが出るのは当然だろう。 福生市で返礼品を用意してまでふるさと納税制度を拡大するかはこれからの課題と思われるが、当市で地場産の商品といえばお酒とハムだろうか。ポータルサイトで確認したら、近隣では青梅市が始めたが、日本酒とタオルそれにせんべいを用意している。一方、立川市では「多摩の恵」と「大多摩ハム」がデパートを介して提供しているのには驚いた。製品があるだけでなく、それらを確実に調達して発送する団体が必要と感じた。

東御市では返礼品を通してまちのPRに力を入れている。このことは参考にすべきと思われる。身の丈にあった規模での寄附が肝要かもしれない。

添付資料

・ 東御市提供資料一式 個人で保管

2. 全国都市問題会議

毎年開催されるこの会議は今年77回目を迎える。2日間にわたり講演、パネルディスカッションが行われ、開催市、先進市の報告、共通課題に対して複数のパネリストが意見交換する。行政サイドの研究会ではあるが、議会としても興味深いテーマで参考になる。

今年は2日間にかけて長野市のホクト文化ホールに約2,500名の行政、議会から参加者を迎え盛大に催された。主催は、全国市長会、後藤・安田祈念東京都市研究所、日本都市センター及び長野市、協賛は全国市長会館である。

本会議の議題は、「都市の魅力づくりと交流・定住」となっており、サブタイトルとして 一人口減少社会に立ち向かう 連携の地域活性化戦略ーが付けられている。テーマとして、・魅力ある都市、・連携による地域活性化、・魅力を高める要素ごとにみる地域活性化を 挙げている。

会議と同名の冊子が配布されたが、会議の参加者による発言内容の概要に加え、研究事例の発表がある。市長からの報告が9例、各種団体・大学研究所からの報告が11例載せられている。参考にさせていただく。





写真は会場となったホクト文化ホールの入り口と開会式における開催地長野市長の挨拶の様子。

以下に講演・報告の内容を簡単にまとめる。

(1) 第1日目(10月8日)

① 基調講演 世界の山々をめざして 登山家 田部井淳子氏

女性で初めてエベレストに登頂された方で、現在でも登山を行っている。講演の中で、この山の名前について説明された。エベレストという名はインド測量局で長官を務めたジョージ・エベレスト (George Everest) にちなんで命名されたもの。英語ではエベレストまたはエヴェレスト、チベット語ではチョモランマ、ネパール語ではサガルマータと呼ばれる。

現在氏は様々な活動をされているが、仲間でシャンソンを習い各地でコンサートを開 くようになった話しはおもしろかった。また、東日本大震災以降、東北の高校生に富士 登山を勧めボランティア仲間のサポートを受け毎年登っている話しでは、年々参加者も増えており今年は100名を超えたとのこと。高校生はきついと言いながらも登頂し自分に自信が持てるようになったとの説明に納得した。

このような活動を通じて人の輪を広げて行くのも活性化の方法と思う。

② 主報告 生き生き「ながの」元気な長野 長野市長 加藤久雄氏 サブタイトルは一人口減少の克服に向けて オール長野の力を結集ー、タイトルどお りとても元気な市長で、昨年高知市で行われた会議の最後に次期開催地の市長として演 壇に立ち、統一地方選挙に挑戦する人たちのために元気玉を送ると張り切っていたのを 思い出す。ドラゴンボールのまね。今年も上着を脱いで張り切っておられた。

報告内容は冊子に譲るが、長野市での取り組みに対し細かく説明された。

③ 一般報告 都市の魅力づくりと交流・定住 立教大学観光学部兼任講師 清水愼一氏 サブタイトルは一人口減少社会に立ち向かう 連携の地域活性化戦略一、「観光地づ くり」ではなく「観光地域づくり」!というテーマで各地の取り組みを紹介された。い まの観光のキーワードは、「地域らしさ」をまち歩きしながら5感で味わう!と説く。

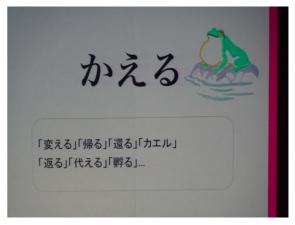
日本の商店街とドイツの町で行われている朝市のようなテント群を紹介された。当市 の商店街も車を締め出し屋台を並べてはいかがだろうか。

④ 一般報告 地域資源を活かした連携によるまちづくり 愛知県豊田市長 太田稔彦 氏

世界一の自動車メーカーの拠点である市で、合併によって中山間地も含まれる広い面積を持っている。その施策はある意味羨ましい環境にあり、あまり興味は沸かなかった。

② 一般報告 一五輪一会 (株)文化事業部代表取締役 セーラ・マリ・カミングス氏 とても元気の良い女性、長野オリンピックの際に来日し小布施を中心に地域興しをされている。





写真は講演の様子と「かえる」。説明にこのような日本語が現れる。水から(自ら)変わることが必要、瓦なくっちゃ(KAWARANAKUCHA!)、桶づくり(OKE OK!)、浴衣をも

っと身近にする「夕方 (YOU GOTTA) から浴衣 (YUKATA) など。

現在、かのやまプロジェクト (Kanoyama Project) と称し、今の日本における「さとやま」のあり方を考え実践する運動を行っている。元気をいただいた。

(2) 第2日目(10月9日)

① パネルディスカッション

都市の魅力づくりと交流・定住一人口減少に立ち向かう 連携の地域活性化戦略ーと 題しての討論。メンバーは以下のとおり。

【コーディネーター】

一橋大学副学長、同大学院法学研究科教授 辻琢也氏

【パネリスト】

両備グループ代表兼CEO 小嶋光信氏

地域再生プランナー
小繁哲之介氏

信州大学全学教育機構基礎教育センター教授 橋本純一氏

岡山県真庭市長 太田昇氏

愛媛県今治市長 管良二氏

詳細は冊子にあるが、コーディネーターをはじめ各パネリストの問題提起が長く、ディスカッションの時間が無くなったのが惜しい。





写真はパネルディスカッションの様子とコーディネーターが用意した資料の一コマ。 パネリストも含めこれらの資料は興味深いので写真に収めた。当市における人口減少問 題にも役立つデータも含まれると思う。

(3) 行政視察

① Eコース ボランティアガイドと巡る善光寺参道と東山魁夷館

無料の視察コースが組まれていたので、このコースに申し込んだ。長野駅までバスで向かい、そこからボランティアの案内で善光寺までの参道を歩く。途中にあるお寺や道祖神など、細かく説明を受けた。

善光寺では寺の案内人の説明を受け、堂内巡りも体験した。

善光寺を後にして東山魁夷館を訪れる。この地で活躍した画家の絵を楽しんだ。

報告者の感想

初日では女性パワーを感じた。田部井淳子氏は 70 歳を超えても山に登り続けておられるし、趣味の世界でも半端ない。また東日本大震災を体験した高校生を元気にするために始めた富士登山も原資は寄附であり、サポーターはボランティアであるが年々参加者も増えており、何より登頂を経験することにより子ども達が自身と勇気を取り戻す、という報告には胸を打たれた。

また、セーラ・マリ・カミングス氏の運動にも日本人にないいい意味でのしつこさを感じた。日本人が失いかけている伝統ある手法を取り戻そうとする活動には敬意を表したい。 日本の心を外国人に教えられるなんて今の日本はどこか間違っているようにさえ感じる。

2日目のパネルディスカッションは報告のとおり、報告に終わってしまった感があり物 足りなさを感じた。地方創生、人口減少対策などどの自治体にとっても喫緊の課題であり、 報告にあった手法も参考にはなると思うが、その地域にあった知恵を絞り合う必要があろ う。当市で取り組んでいる事業により人口減少が止まるか分からないが、数だけじゃない と考えることも一利ではないかと感じている。

添付資料

・ 第77回全国都市問題会議資料一式 個人で保管

名刺交換(正和会会長として)



16

湯の丸高原

東御市 総務部

企画財政課長 兼 地域づくり支援室長

岩下正浩

Iwashita

Masahiro

〒389-0592 長野県東御市県281-2 電 話 0268-64-5893(直通) ファックス 0268-63-5431 E-mail:kikaku@city.tomi.nagano.jp 市HP http://www.city.tomi.nagano.jp



6

湯の丸高原

2 5 2

東御市役所 総務部 企画財政課 企画政策係

係長中村昌彦

Nakamura Masahiko

〒389-0592 長野県東御市県281-2 TEL (0268) 62 - 1111 代 内1141) FAX (0268) 63 - 5431 E-mail:nakamasa@city.tomi.nagano.jp



海野宿



東御市議会事務局 監查委員事務局 公平委員会事務局

事務局長宮嶋武彦

〒389-0592 長野県東御市県281-2 TEL (0268) 64-5810 FAX (0268) 62-5040 http://www.city.tomi.nagano.jp/ E-mail:gikai@city.tomi.nagano.jp/



🥒 長野県 東御市

監查委員事務局次長議会事務局次長公平委員会書記

堀内和子

〒389-0592

長野県東御市県281-2 TEL (0268) 64-5810 FAX (0268) 62-5040 E-mail;horiuchi@city.tomi.nagano.jp E-mail;gikai@city.tomi.nagano.jp



長野県東御市

東御市議会事務局庶務係 東御市監査委員事務局 東御市公平委員会事務局

主任笹 井 政 孝

₹389-0592

長野県東御市県281—2 TEL(0268)64-5810 FAX(0268)62-5040 http://www.city.tomi.nagano.jp/ E-mail:gikai@city.tomi.nagano.jp